

2014年度事業報告書

(2014年4月1日から2015年3月31日まで)

特定非営利活動法人札幌チャレンジド

【特定非営利活動に係る事業】

1. 就労継続支援サービス（A型）事業

2014年度は、雇用契約者24名、非雇用契約者8名の合計32名が就労継続支援サービス利用者として仕事に従事した。

チャレンジドへの支払い総額

2014年度：23,235千円（前年比31%増）

2013年度：17,695千円

2012年度：15,309千円

2011年度：17,744千円

2010年度：20,504千円

2009年度：17,915千円

2008年度：15,621千円

2007年度：10,577千円

チャレンジドの一人平均月額賃金（単純平均）

2014年度：69,358円（前年比15%増）

2013年度：60,189円

2012年度：52,610円

2011年度：55,975円

2010年度：55,269円

2009年度：55,295円

2008年度：51,319円

2007年度：39,175円

2014年度は、受注業務が大幅に増加し、チャレンジドへの支払い総額は23,235千円と過去最高となった。前年比31%増と大幅な増加になったことはとても喜ばしいことである。これもひとえに札幌チャレンジドに業務を発注していただいている企業さまのおかげである。今後も企業の期待に応えられるように努力していきたい。また、業務量の拡大に伴って、一人当たりの平均賃金も15%増え、約7万円まで増加した。札幌チャレンジドの給与と障がい者年金で自立生活ができるレベルに近づいている。

2015年4月には、今後の事業拡大に向けて就労スペースの拡大を予定。

【チャレンジドが従事する主な業務内容】

- ① パソコン講習講師
- ② ネット上における監視業務
- ③ データベース入力業務
- ④ カタログ掲載商品のデータ入力・画像編集業務
- ⑤ リライト業務（原稿を必要な文字数で書き換える業務）
- ⑥ データ収集業務（ネット上のデータをお客様の依頼によって収集する業務）
- ⑦ アフィリエイト関連業務（商用アフィリエイトのための補助業務）
- ⑧ 商用イラスト作成業務
- ⑨ ホームページ制作業務
- ⑩ ホームページ更新・修正業務
- ⑪ アンケートデータ入力業務
- ⑫ WEBモニタリング業務（ネット上のデータをお客様の依頼によって調べて報告する業務）
- ⑬ 写真加工・切抜き業務
- ⑭ 字幕製作業務
- ⑮ テープ起こし など

2. 就労移行支援サービス事業

2014年度は、15名が就労移行支援サービスを利用し、4名が就職し、前年度（5名）と同程度の実績を維持した。通年で利用者を受け入れできるカリキュラムの開発を行い、利用者確保の改善を図った。

2015年3月には、今後の事業拡大に向けて移行支援のスペースを移設、拡大した。特に視覚障がい者の就職支援に注力するために、視覚障がい者の専門研修スペースを設置した。

課題としては、利用者の支援に留まらず、親との連携、親への支援も重要な場合が増えてきている。若年層の利用者の場合、家庭と一体となった人間形成に関わる必要がある。

また、2015年4月からの制度変更により、定着支援を3年間行うことが必要となっており、現職員体制でどこまで可能か、支援方法の試行錯誤を行いながら定着支援を実現していく。

（2015年度の定着支援体制加算の算定値）

6月以上12月未満の定着者の割合 定員の60% → 最上位ランク

12月以上24月未満の定着者の割合 定員の40% → 上から二番目のランク

24月以上36月未満の定着者の割合 定員の90% → 最上位ランク

2015年度は、拡大したスペースをフルに活用するために、新たな利用者の確保に努める。

3. 行政からの主な受託事業

(1) 札幌市障がい者ITサポートセンター事業

① パソコン講習会

札幌市身体障害者福祉センターにおいて、身体及び知的、視覚、聴覚、上下肢、盲ろう障害別に、32回の講習会を行った。

② パソコンボランティア派遣

2013年度の派遣回数が334回、2014年度は442回と着実に増加しており、パソコンボランティア派遣が利用者にとって有益なサービスであることが定着し始めていると考えられる。

③ 相談業務

電話、メール、来所・FAX等で相談対応を行っている。ITが普及した現代ではあるが、様々な相談が寄せられている。

4. 子育て！北海道事業

2006年12月に開設した子育て支援のポータルサイト「子育て！北海道」の運営に関する事業。NPO法人北海道子育て支援ワーカーズと協働で運営している。

収入の無い手弁当での事業であるため、可能な範囲で子育て支援につながる情報を発信している。特に、イベント情報については、コンスタントに情報掲載依頼が来ており、一定の役割を担えていると考える。

5. 中期経営目標の達成状況

2013年度から初めて3年間の中期経営目標を設定した。その達成に向けた進捗状況は以下のとおりである。

(1) 社会に対する新たな価値の模索

事務局員全員で議論を重ねた結果、以下の三つの重点項目に取り組んでいくこととした。

- 就労支援の拡大および在宅就労地域の拡大（札幌以外の道内での在宅就労）
- 視覚障がいの者の就職支援（人材育成と新たな職域開発）
- 発達障がいのグレーゾーンの若者の就労&就職支援（大学等との連携）

(2) 就労継続支援A型事業の賃金総額の向上

2015年度賃金総額2,200万円の目標に対して、2014年度は2,323万円となり、2年間で目標を達成した。

引き続き新規企業の開拓に注力して、賃金総額の向上を継続する。

(3) 就労継続支援A型メンバーの人材育成

2013年度に新たな賃金制度の創設し、働きがいのある職場の構築に努めた。企業との研修の充実や札幌チャレ内の研修会の実施によって各人のレベルに即した人材育成に取り組んだ。今後は、仕事のスキル以外にもコミュニケーション能力の向上などトータルとしての人材育成に取り組んでいく。

(4) 就労移行支援事業の継続した就職実績を実現するための運営ノウハウの構築

札幌チャレンジドの就職支援の大きな特徴は、定着率の高さである。しっかりとした研修とフォローアップによって長く働ける人材育成を実現している。引き続き、就職実績の維持と定着支援を行う。

(5) 道内中小企業と同等の給与水準の実現

2014年度は、前年度の収支結果を勘案し、夏冬合計で基本給の1.8ヶ月分の賞与を支給した。基本給のベースアップは困難な状況であるが、コンスタントに賞与を支給できる経営をめざしたい。

6. 総括

2014年度は、札幌チャレンジドの次の10年をさらなる飛躍、発展させるために土台となる貴重な一年となった。一年間かけて職員全員で札幌チャレンジドの未来を議論し、「MIX COM (ミックスコム)」という新たな概念を生み出した。

MIX COM は、ITを活用して社会を混ぜこぜにしていく、札幌チャレンジドが障がいのある人の働ける社会を実現するために様々なステークホルダーを混ぜこぜにしていくなど社会的視野を拡げて取り組んでいく。

そして、既存事業の拡大および新規事業への取り組みを行うために、2015年3月に北苑ビル2階に37坪のスペースを借り増した。工事費及び運転資金の確保を行うために日本政策投資銀行から既存の借り換え分を含めて1,800万円の融資を受けた。

NPOと言えども「適切な投資」という概念が重要であり、資金を確保し、事業に投資することで、事業の成果を上げて、社会に貢献していく。

就労継続支援サービスおよび就労移行支援サービスを基本にしながら、制度事業に依存することなく、NPOとしての自由な社会貢献活動に常にチャレンジする組織であるために、引き続き、職員全員で議論しながら行動していく。

札幌チャレンジドの原点を確認し、未来を描く、貴重な一年であった。

【就労スペース】



【移行支援スペース】



研修室



実務室



視覚障がい者研修室



入口から

【NPO 法上のその他の事業】

本年度は実施せず。

以上